

【ポスターセッション】

文献調査から見る地域包括ケアの概念

○ 岩手県立大学 氏名 吉田清子 (007952)

キーワード：地域包括ケア、文献調査、概念

1. 研究目的

ケアマネジメントが仲介型サービスであるのに対し、地域包括ケアシステム (integrated care) は、特定の対象者に的を絞り、チームで責任を持って継続支援する方法である。¹⁾

介護保険制度の本年度からの大幅な改正を受け、地域包括ケアへの関心が高まっている。

地域包括ケアは、在宅生活の継続をもとめる生活者の視点から、高齢者を支えるシステムとして注目される一方で、一定の財源の中で、より多くの地域高齢者を支えなければならず、地域づくりや人づくりの難しさが挙げられている。

本研究では、地域づくりや人づくりの第一段階として、地域包括ケアに関する文献調査を行いその結果から地域包括ケアとは何か、連携とは何かを導き出すことを目的とする。

2. 研究方法

地域包括ケアに関する文献調査を行い、地域包括ケア結果をまとめた。

地域包括ケアに関する文献については、日本国内の著者が発行した地域包括ケアに関する論文と著書であり、2014年6月から2014年10月までの間に検索したものである。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会の倫理規定に添い、執筆した。

4. 研究結果

表1 文献

著者名	書籍名・出版社・発行年	地域包括ケアの目指すもの
筒井孝子	地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略 Integrated care の理論と応用 中央法規 2014	利用者に合わせたケア
東京大学高齢社会研究機構	地域包括ケアのすすめ在宅医療推進のための多職種連携のこころみ 東京大学出版会 2014	医療の連携
田中滋	地域包括ケアサクセスガイド-地域力をたかめて高齢者の在宅生活をささえる メディカ出版 2014	安心生活創造事業
西島善久	躍進するソーシャルワーク活動	地域ネットワーク構築事業

	-地域包括支援センターからみた地域包括ケア- 中央法規 2013	
井上健朗	躍進するソーシャルワーク活動 -医療機関からみた地域包括ケア- 中央法規 2013	医療保険と介護保険の連携

アメリカでは、1990年代重い精神障害を抱えた方が専門職チームに支えられ、病院外で暮らすことに成功した。日本においても、アメリカの Assertive Community Treatment 「包括型地域支援プログラム」²⁾ を見本にケアマネジメントサービスが導入された。

今後、75歳以上の高齢者数は、2025年に800万人が見込まれている。日本の急激な高齢社会は目前に迫っており、介護職・福祉職・医療職などの連携は大きなテーマである。

筒井は、地域包括ケアは、175もの定義と概念を有すると述べている。引用した文献だけでも着眼点が大きく異なることを理解した。

利用者の状況に合わせた連携や地域開発を行うことで、課題を抱えた高齢者の生活は改善していけると予測される。

5. 考察

文献調査の結果から、地域包括ケアとした場合に、①として医療的ケアを必要とする重度者の退院後の医療支援システムの構築としての専門職チームの構築、②医療的ケアの必要性は低い地域での支えを必要とする高齢者者の専門職チーム③地域にある専門職ネットワークとの連携構築の3点が認められた。

筒井が述べるように、利用者の状態に応じて必要な専門職チームは異なる。副田³⁾は、安心作り、安全探しアプローチ法(AAA)を開発し、高齢者虐待に生かしている。今後もこのようなアセスメント表が開発されることにより、平面的だった支援が立体的に提供できるようになる。

困難を抱える高齢者の課題は、複合的かつたくさんのチーム支援を必要としている。このときの調整者は、利用者と資源との調整者ではなく、チーム対チーム間の調整役が必要となる。

引用文献

1) 小川英二「社会的孤立と行政」『社会的孤立問題への挑戦-分析の視座と福祉実践』法律文化社、2013

2) 西尾雅明「ACT入門-精神障害者のための包括型生活支援プログラム-」金峰出版、2010

3) 副田あけみ「高齢者虐待にどうむきあうか-安心づくり安心探しアプローチ開発」2013

参考文献

厚生労働省「地域包括ケアシステム」2015/5/5